

第8 用語の解説

用 語	解 説	
あ行	ICT (アイシーティー)	Information and Communication Technology の略。情報処理や通信に関する技術・産業・設備・サービスなどを指す。
	赤潮	水中のプランクトンが異常増殖して、海水が変色する現象。魚介類に害を与える。
	磯根資源	沿岸の岩礁域で漁獲されるアワビやサザエ、ウニ、ナマコなどの魚介類。
	磯焼け	海藻が減少して、焼けたあとのように海底が白く見える現象。海藻が減少することによって、アワビ、サザエなどの磯根資源も減少するため、沿岸漁業に与える影響も大きい。
	イノベーション	新しい技術や考え方を取り入れて、新たな価値を生み出して変化を起こすこと。
	インバウンド	外国人が訪れる旅行。
	栄養塩	植物プランクトンや海藻が正常な生活を営むのに必要な窒素、リン、ケイ素等を総称したもの。
	SDGs	Sustainable Development Goals の略。先進国・途上国のすべてを対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す持続可能な開発目標。
	沿岸漁業	陸岸近くで行う漁業。10トン未満の無動力船及び動力船を使用した漁船漁業のほか、定置網漁業、養殖業など。
	沖合漁業	10トン以上の動力船を使用して、200海里水域内で操業される漁業。
か行	海底耕うん	海底を耕し、堆積物をかくはんさせて酸素を供給することによって、生物の住みやすい海底に改善する底質改善の手法。鉄製の器具をロープに付け海に投入し、漁船で引っ張り海底を耕す作業のこと。
	海洋性レクリエーション	潮干狩り、海水浴、クルージング、釣り、ダイビングなどの余暇活動。
	完全養殖	人工孵化から育てた成魚・成貝が産卵し、その卵をもとにふたたび人工孵化を行うこと。天然の卵や幼魚・稚貝に頼ることなく持続的な養殖を行うことができる。
	魚価	水産物の販売価格をいい、本書では漁業者が取引する際の価格。主として卸売市場の仕切価格。
	漁家	個人漁業経営体及び漁業就業世帯を総称したもの。
	漁業共済	不漁等により漁獲金額が減少した場合の損失を補償することにより、収入の変動による漁業経営への影響を緩和する収入安定対策。
	漁業協同組合	漁業者によって組織される協同組合。貯金の受入や資金の貸付を行う信用事業、漁業用資材・機器等を一括購入して組合員へ供給する購買事業、漁獲物や加工品を一括集荷して共同販売する事業、冷蔵庫・加工場・船揚場・漁具倉庫等の共同利用施設の設置・運営事業などのほか、漁業を直接経営することも。
	漁業権	公共の水面において水産動植物を採捕したり、養殖をして生計を立てる権利。県の免許により設定され、一定の水面において特定の漁業を一定の期間、営むことができる。
	漁業就業者	漁業世帯（個人漁業経営体及び漁業就業世帯）の世帯員のうち、満15歳以上で過去1年間に自営業または漁業雇われの海上作業に30日以上従事した人。
	漁業集落	漁業地区において、漁港を核に漁業世帯が居住する範囲。
	漁港	漁業に携わる人が、漁獲した魚介類の陸揚げや燃油の補給、船の停泊などのために使用する港。
	魚礁	岩などにより海底の浅く盛り上がった部分で、魚類が多く集まる場所。自然の海底地形によるものを「天然魚礁」といい、人工的に造られたものを「人工魚礁」という。

	用 語	解 説
か行	漁場	漁業において、収穫すべき水産物を得る場所。
	魚食普及	魚に親しみ、食べる機会を増やすことによって、魚を食べる文化を広めること。
	漁村	漁場近くの岸などに立地し、魚類の捕獲と魚介類の水揚げで主に生計を立てている村。
	漁労支出	漁労収入を得るために要した一切の費用のこと。
	漁労収入	漁業経営の結果得られた収入。
	漁労所得	漁業経営から生じた所得。漁労所得の金額は漁労収入額から漁労支出額を控除した金額。
さ行	栽培漁業	卵から稚魚になるまでの一番弱い時期を人の手で守り、その後、自然の海に稚魚を放流し、成長したものをとる漁業。
	里海	人の手が加わることによって生物多様性と生産性が高くなった沿岸海域のこと。
	産学官連携	大学や研究機関等が持つ研究成果、技術やノウハウを民間企業が活用し、実用化や産業化へと結びつける仕組み。
	産地市場	農産物や水産物などの生産地（水揚げ地）で卸売りのために開設される市場のこと。
	資源管理	水産資源ごとに、最新の科学的知見を踏まえて実施された資源評価に基づき資源管理の目標を設定し、当該資源管理の目標の達成を目指し漁獲可能量による管理を行い、最大持続生産量を実現できる資源量の水準を維持、又は回復させること。
	資源管理型漁業	漁業者が主体となって漁具・漁法の制限や禁漁期の設定等の漁業制限を管理・実行し、資源の再生産と有効活用を適切に図りつつ漁業経営の安定化をめざす漁業。
	種苗放流	魚介類は卵から稚魚になるまでの時期に他の魚による捕食などによりその多くが死亡してしまう特性がある。この時期を人の手で管理し、生存力の高い大きさまで飼育した稚魚（種苗）を天然の水域に放し、自然の生産力を活用して水産資源を増やす取組みのこと。
	食害	魚介類が海藻などを食い尽くすことにより、磯焼けなどの被害を与えること。
	水産エコラベル	生態系や資源の持続性に配慮した環境にやさしい方法で漁獲・生産された水産物に対して、消費者が選択的に購入できるよう商品にラベルを貼付する認証スキームのこと。
	水産基本計画	水産基本法に基づき、水産に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために国が策定した計画。
	水産業	漁業、養殖業、水産加工業などの水産物を取り扱う産業の総称。
	水産物	一次産品である生鮮魚介類や海藻類に加え、二次産品である干物、魚肉ソーセージ等水産加工品が含まれる。
	スマート水産業	ICTを駆使して操業の効率化が図られた漁業などの営み。
	生産金額	漁獲物や養殖の収穫物等を販売した金額。
	た行	多面的機能
地産地消		地元で生産された水産物等を地元で消費すること。
つくり育てる漁業		水産資源を持続的に利用していくため、種苗の生産・放流、漁場の整備などの栽培漁業や養殖業を含め、天然資源の再生産の循環過程に人間が関与することにより有用資源の維持、増大を図る漁業のこと。

用 語		解 説
は行	干潟	遠浅で潮が満ちると隠れ、引けば現れるような砂や泥の場所。
	ふくおかさん家のうまかもん 条例	福岡市内で生産された農林水産物及びその加工食品の生産及び加工並びに利用及び消費拡大に関して、基本理念を定めたものであり、食に関する選択の機会の確保、食を目的とする観光客の来訪の促進等を図り、関連産業の健全な発展及び市民の健康で豊かな生活の向上に寄与することを目的としている。
	ブルーカーボン	大気中の二酸化炭素が海草などの水中の生態系に吸収されることを表すもの。
ま行	藻場（もば）	海藻が多く繁っている場所であり、魚の産卵や生育の場となっている。
	藻場造成	海藻がなくなった場所へ人の手によって海藻の移植を行い、新たな藻場を創り出すこと。
や行	遊漁	趣味として釣りや漁をすること。
ら行	離島漁業再生支援交付金制度	販売や生産資材の取得など、主として輸送の面での不利性を有する離島において、離島の漁業集落が行う漁業再生活動に対する交付金による支援を行い、もって離島の有する多面的機能の維持・増大を図るための国の制度。